A

対話を通して考えを広げたり深めたりする子ども

―対話を生むための環境づくりと必要性を生む問い返し―

長岡市立宮内小学校
桐生　隼（129 年度）

主　張
６年生社会科「幕府の政治と人々の暮らし」において，子どもの問題意識に沿った資料や地域教材を提示し，視点を変えたり考えを整理したりする問い返しを行うことで，資料や仲間との対話を生み出した。対話を通して子どもは，参勤交代や大名の配置，身分制や鎖国などの江戸幕府の政策と長期間の政治の安定を関連付けて理解し，大名や人々に負担を強いることで支配しようとした江戸幕府の政策により武士の政治が安定したという歴史的事象の意味を捉えることができた。

Ⅰ　主題設定の理由

私が目指す子どもの姿は，社会的事象に内在する問題について，生活経験だけではなく，資料を根拠として考える子どもである。また，対話を通して，自他の考えの重なりや違いに気付いたり，その重なりや違いを確かめたり埋めたりしようと追求を続けることを通して，自分の考えを広げたり深めたりする姿である。

歴史分野の導入である「日本の歴史」では，それぞれの時代の日本の選挙の様子が分かる写真資料から選挙の変化について考えた。「昭和４年の選挙の写真には，男性しか写っていない。」「服装がみんな一緒で，若い人がいないように見える。」など，資料をもとに，選挙の様子に気付き，発言する姿が見られた。資料を根拠として考える力は伸びてきている。一方，自分の気付きのみを発表して満足してしまい，「本当に，若い人や女性は選挙ができなかったのかなあ？」と確かめようとしたり，「今の時代のように，18 歳以上の男女に選挙権が与えられたのは，いつ，どうしてなんだろう？」と問題意識を高めたりする姿は見られなかった。

自分の気付きや考えを話して終わりではなく，対話を通して考えを広げたり深めたりする子どもを育てたい。そのために，指導者である教師自身のこれまでの指導を振り返り，子どもの問題意識に沿った資料や身近な地域教材を用意したり，「これって，どういうことかな？」「本当に関係はないのかな？」のように，視点を変えたり考えを整理したりする問い返しを行ったりしたい。このように対話を生むための環境づくりと対話の必要性を感じる問い返しによって，問題解決に向けて友達と自他の考えを聴き合い，自分の考えを広げたり深めたりする姿が期待できると考え，本主題を設定した。

Ⅱ　目指す子どもの姿

内容⑵ アの(キ)(シ)，イの(ア)の江戸時代初期の学習において，自身の生活経験をもとに社会的事象と向き合う傾向の強い子どもが，問題意識に沿った資料や身近な地域教材，視点を変えたり考えを整理したりする教師の問い返しによって，資料や仲間との対話の必要性を感じ，資料を読み返したり仲間と考えを聴き合ったりして追求を進めることで，江戸幕府の政策と長期間の政治の安定を関連付けて理解することができ，大名や人々に負担を強いる江戸幕府の政策により武士の政治が安定したという社会的事象の意味に気付く姿

Ⅲ　目指す子どもの姿を実現するための手立てと効果の検証方法

１　手立て

⑴ 子どもの問題意識にそった資料提示と地域教材の活用（＝対話を生むための環境づくり）

これまでの教師自身の指導を振り返ると，「知ってほしい」という教師の願いが先に立ってしまい，教師から資料を与えることが多く，子どもは問題に直面しても，教師の資料（＝答え）を待つことが多かった。その反省に立ち，「追求を進めるために，こんな資料がほしい。」と自分に必要な資料を求めたり，「本当にこれでいいのかな」と立ち止まったりする子どもの姿を捉え，その問題意識に沿った資料提示を心掛ける。また，地域教材の活用を図る。歴史の学習では，自分と学習する歴史的事象との時間的な距離から興味や関心を高めることが難しい子どもが少なくない。そこで自分の地域の事象を取り上げることで，歴史的事象をより身近に感じさせたい。

このように，子どもの問題意識にそった資料提示や，歴史的事象を身近に感じることのできる地域教材の提示によって，子どもの問題意識をさらに高めたい。問題意識を高めた子どもは，仲間や教材との対話を通して，追求を続けていくと考える。

(2) 視点を変えたり考えを整理したりする教師の問い返し（＝対話の必要性を生む問い返し）

話合いが安定したり拡散したりして，追求が停滞した時には，視点を変えたり考えを整理する問い返しを行い，追求意欲を高めたい。「これって，どういうことかな？」「本当に関係はないのかな？」のように問い返すことで，子どもは，資料に立ち返ったり仲間と確認し合ったりするだろう。このような教師の問い返しにより，資料や仲間との対話を生み，その子の考えを広げたり深めたりしたい。

２　手立ての検証方法

A児の授業中の姿や授業後の振り返り記述などから，上記２つの手立てを評価する。

A児は,自分の生活経験から自分の考えをもつことができるが,思いついた考えを発言するとそれで満足してしまい,根拠を明確にしたり，仲間と聴き合うことで考えを広げたり深めたりする姿はあまり見られない。このように社会的事象を一方的に捉えて満足してしまう傾向があるA児が，問題意識を高め，自分の考えをより確かにするために，資料や仲間との対話を繰り返す中で,歴史的事象を関連付け,その意味の捉えを少しずつ深めたり広げたりする姿を期待する。

Ⅳ　授業の実際　　「幕府の政治と人々の暮らし」（全６時間）　令和５年10月　長岡市立宮内小学校６年３組34名

１　資料や仲間との対話から追求意欲を高めたＡ児

江戸時代の学習の導入において,まず,教科書で取り上げられている加賀藩の参勤交代の様子を表す資料を提示した。子どもたちは，資料から，行列の人数の多さや莫大な費用がかかることなどを読み取った。加賀から江戸への経路を確認していく中でA児が，「やっぱり上越を通っている！」と声を上げた。A児の発言をもとに長岡藩と比較することで，参勤交代の意味に迫ることができると考え，「長岡藩も同じこと（参勤交代）をしているのかな？」と問い返した。A児は「していない！新潟は山があるし。」と答えた。他の子どもからも「大変だから長岡藩はしていないのではないかな。」「石川は田舎で，新潟は有名だからしていないんじゃない？」のように同意する声が続いた。一方で，「(参勤交代をしている藩としていない藩があるとしたら）それでは不満がたまるよ！」とA児たちとは反対の立場の発言が出された。確かめたいという子どもたちの意識の高まりを見取り，そこで長岡藩の参勤交代の様子が分かる資料を提示した。【資料①】A児は「100 年で９回なんだって！」と驚いたような声を上げた。参勤交代は幕府が全国の藩に命じた政策であることを確かめた上で，子どもたちに考えを聞いた。子どもたちは，「大名にとって，参勤交代はきっと大変だったと思います。」「とても辛かっただろうと思います。」「これでは幕府への不満が募ったと思います。」など，大名の立場になって負担の大きさを捉えた発言が続いた。一方，幕府の立場に立った考えが出なかったため，幕府の政策の意図に目を向けさせるために，「参勤交代をすることで，江戸時代は長続きしたのかな？」と発問した。

子どもたちは，「こんなに不満がたまる政策をして，時代が長続きするはずがない。」「これまでの学習で，今までの時代は人々の不満がたまることで終わってきた。だから江戸時代も短いはずだ。」A児「長続きしない！」など，これまでの学習をもとに，江戸時代は短かったはずだという考えが出された。一方で，教科書をもとに，「調べたら平和な時代って書いてあった。」「200 年くらい続いていた…。」のようなつぶやきが聞こえ始め，A児も自分の考えを教科書で確かめ始めた。そこで，教科書や江戸時代と他の時代の長さを比べることができる資料【資料②】を全体で読み取り，江戸時代が約 270 年続いたことを確認した。子どもたちから，「どうして長続きしたのだろう？」と不思議そうな表情やつぶやきが見て取れた。子どもたちは，参勤交代から，幕府の行った政策の厳しさや理不尽さを理解したが，その政策と江戸時代が長続きした関係について結びつかず，ズレを感じていると捉え，「江戸幕府は不満がたまりそうな政策をしているのに，どうして約 270 年間も続いたのだろうか。」と問いかけ，調べていこうと単元を貫く問題を設定した。

改めて，「参勤交代をすることで，江戸時代は長続きしたのかな？」と発問した。教師としては，幕府は，大名の力を弱めることで大名を支配しようとした幕府の意図に気付くことができると考えていた。しかし，子どもたちの意識は，やはり「こんなに不満がたまる政策をして，江戸時代が長続きするはずがない。」と，参勤交代と江戸時代の安定は結び付かないと考える様子が見られた。しかし，A児「定期的に米を配ったり，（何か褒美を）あげたりしたのではないか。」や，他の子どもからも「褒美がもらえたからではないか。」「無理に米を納めなくてもよくした。」のように，江戸時代が長続きしたのは，参勤交代のように厳しい政策ではなく，他の理由があるのではないかと考える姿が続いた。

A児の振り返り①「どうして江戸幕府は270 年間も続いたのだろうか？」 めちゃくちゃ厳しく罰していたか，農民にめちゃくちゃ優しい（政策をしたから，長続きしたと思う）。

授業の様子や振り返りから，A児や他の多くの子どもたちは，参勤交代は，大名にとって負担が大きく，不満がたまるだろうと理解することはできたが，負担を強いて弱らせることで大名を支配するという幕府の意図に気付くまでには至らなかったと評価する。一方で，子どもの問題意識に沿った資料を提示したり，視点を変える問い返しをしたりした

ことで，仲間や資料との対話を生み，江戸時代が長続きするためには，厳しい政策以外に他の理由があるはずだと，子どもたちの追求意欲を高めることができたと考える。この高まった追求意欲をもとに，次の時間も江戸幕府が 270 年間続いた理由と政策との関係を追うこととした。

２　資料や仲間との対話から，幕府の政策の意図に気付き始めたＡ児

A児のように「優しい」政策をしたから江戸時代が長く続いたと考える子どもたちに「大名の配置図」を提示した。A児は，「幕府が大名を好きに配置することができた。」という説明に理不尽さや厳しさを感じていた。そこで，「どうしてこのような配置にしたのだろう？」と発問した。A児は「気に入っている順かな？」と答えた。幕府の意図に気付き始めていると考え，「気に入っている順って，どういうこと？」と問い返した。A児は少しの沈黙の後，「安心できる人が（江戸の）近くにいる。なんかやりそうな人を遠くに…。」と答えた。すると他の子どもから，「やりそうって何？」と聞き返され，「反乱を起こしそうな人。」と言葉を改めた。そこで，「つまり，幕府は反乱を起こしそうな人，外様大名は江戸から遠くに配置したんだね。」と幕府の政策の意味を確認した。A児をはじめ，学級の子どもたちは納得した様子であった。その後，B児が「ということは参勤交代って…。」と前時の学びと結び付けようとする発言をしたので，「参勤交代にも幕府の考えがあるのかな？」と問い，改めて参勤交代の意味を考えさせた。子どもたちは「多くの費用が必要だから，大名たちは幕府に反乱できなくなる。」「加賀藩より長岡藩の方が参勤交代の回数が少ないのは，加賀藩が外様で長岡藩が親藩だからだ。」A児も「人質を取ることで幕府を攻められないようにできる。」など，参勤交代にも幕府が大名を支配する意図があることに気付く姿が見られた。その後，「武家諸法度」を提示したところ，子どもたちは，「やっぱり大名にとって，厳しいなあ。」「（大名は幕府から）支配されている･･･」のように，江戸幕府の政策によって大名が支配されていることに気付く姿が見られた。

A児の振り返り②「どうして江戸幕府は 270 年間も続いたのだろうか？」　　（〰〰は授業者の追記） 幕府は，恐怖で国を治めていたと思います。でも，賢いやり方だと思います。

「幕府は」から始まるこの時間のA児の振り返りからは，前時は大名の立場から考えていたA児が，幕府の立場からも政策の意味を考え始めた姿が読み取れる。「でも」に続く記述も，幕府の立場から考えると「大名配置図」「武家諸法度」「参勤交代」などの政策は，「賢いやり方だ」と考えているだろうと読み取れる。

「どうしてこのような配置にしたのだろう？」「気に入っている順って，どういうこと？」「つまり，幕府は反乱を起こしそうな人，外様大名は江戸から遠くに配置したんだね。」のような教師の問い返しにより，A児や学級の子どもたちは，資料や仲間と対話を重ね，大名だけではなく，幕府の立場からも政策の意味を考え，その意図に気付き始めることができた。

３　資料や仲間との対話から，幕府の政策の意図について理解を深めたＡ児

身分制度から幕府の考えを読み取る時間である。A児はこれまでの学習で，農民の扱いがひどいと考えていた。また，農民と自分を重ね合わせて考え，天皇や貴族，幕府からの命令に理不尽さを感じ，怒りをあらわにしながら学習に取り組んできた。そのA児は，江戸時代の身分制度について教科書をもとに調べていく中で，やはり農民に対する幕府の考え方に関心をもった。資料を読み取る際には約７分間，一言も話さずに読み続ける姿があった。幕府と大名の関係についての学びから，農民に対しても支配するような幕府の政策であることは予想していたA児や子どもたちだが，C児「農民には戦力がなく，反乱を起こしても幕府は滅びないのではないか。」のように，大名の力を弱めることと同様に農民の力を弱めることが政治の安定にどうしてつながるのか，納得できないようであった。そこで，「農民の役割って何だっけ？」と問いかけた。A児は「米を作ること。」と答え，はっとした表情の後「労働力…。」とつぶやき，教科書に視線を落とした。武力のない農民が反乱しても幕府が滅びることにつながらず，だから農民を厳しく支配する必要はなかったのではないかと考えていたA児や子どもたちが，農作物という視点が加わることによって，幕府の安定には食料を確保することも必要であり，そのための支配が必要だと気付いた。学習のまとめでは，D児「幕府にとって農民も大切な役割の一つだと分かった。」というように，農民の反乱を未然に防ぐことが幕府の安定，特に食料の面で関係していることを捉えることができた。

A児の振り返り③「どうして江戸幕府は 270 年間も続いたのだろうか？」 幕府は恐怖とルールで国を治めていて，徹底的に反乱を起こさせないという信念？みたいなものが感じられました。

これまでは支配するということは，武力を用いて，幕府の思い通りにすることだと捉えていたＡ児だったが，視点を変える教師の問い返しによって，食料を確保し政治を安定させるために，幕府は農民を支配したという見方をすることができるようになった。支配することで社会の安定を図る幕府の意図について，理解を深めることができたA児であった。

４　地域教材から仲間との対話が生まれ，幕府の政策についての理解を広げたＡ児

授業者である私は，江戸時代の農民は幕府の強い支配を受けながら，しかし，生活を楽しみ，力強く生きていたと捉えている。農民に対する関心が高いA児や学級の子どもたちに，そうした見方もできるようになってほしいと願い，

「長岡藩の農民の様子」について調べる活動をおこなった。まず，「農夫歓宴」【資料③】を提示し，気付いたことを発表させた。「生活に余裕がありそう。」「楽しそう。」と発言が続き，A児も，「お酒飲んでいる？」「法令（慶安の御触書）を破っている。」「夜は縄をない，だから休む時間なんてないはずなのに。」と発言した。農民は幕府から厳しく支配されていると捉えている子どもたちにとって，こうした農民の姿をどう理解すべきか，戸惑っている様子であった。するとA児は，「長岡藩は親藩だから，（楽しそうにしていても）よかったんじゃないのかな。」と「親藩・譜代・外様」の関係から考え，発言した。A児の発言によって，子どもたちは，長岡藩の農民は，他の藩より厳しい支配を受けていなかったのではないかと考え始めた。その子どもたちに対し，「長岡藩の農民の暮らしを見てみる？」と問い掛け，長岡藩の年間の農作業が書かれた資料を提示した。【資料④】A児は「夜なべ仕事」がある大変さや，他の藩と違い長岡は雪が降り，農作物が作れない時期でも何かしらを作り続けていたことに気付き，「夜勤手当出さなきゃだな。」と大変さを実感した様子であった。そこで，子どもたちに，「長岡藩の農業ってどうだったとまとめればいい？」と問うた。すると，「辛そう。」「大変そう。」という声が上がったので，「長岡藩の農民も，他の藩と同じく，幕府や藩から強く支配されていたんだね。」と確認した。しかし，農民はやはり強く支配されていることが分かったことで，改めて「農夫歓宴」にある農民の姿が子どもたちは理解できない。すると，A児は，「資料に『お盆の時期には〇〇をし…。』と書いてあるから，この想像図もお正月だから許してくれるかも。」と発言した。A児の発言をきっかけとして，「それは，ないんじゃない？」という声や「さぼっているのでは？」という声が上がり始めた。

ここで子どもたちと疑問を次のように整理した。「正月のような行事があったのかどうか。」「休みの日はどのくらいあったのか。」「本当にさぼっていたのか。」その上で３種類の資料【資料⑤⑥⑦】を提示し，自分の関心をもとに調べるように促した。A児は，「さぼりは，調べても出てこなそう。」とつぶやき，行事についての資料【資料⑤】をもって，仲間のもとへ話に出かけた。

A児は行事ごとの農民の様子が描かれた想像図【資料⑤】から，長岡藩の農民の生活について，仲間と対話を始めた。A児「門松を飾ったり，さいのかみをしたり，正月（の出来事）が多いね。」E児「盆踊りもしている。」A児「色々な村祭りがある。」など，資料をもとに農民の生活についての理解を広げる姿が見られた。このように個人や小グループごとに資料を読み取った後，全体で共有する場を設けた。「１月に休みが多い。」との発言に，A児は自分が調べた資料をもとに，「正月は（農作業の他に）やることが多かったからかも。」と，関連付けて意見を発表する姿が見られた。

A児の振り返り④「どうして江戸幕府は270年間も続いたのだろうか？」 幕府や藩は農民を厳しく支配していた。でも，教科書では農民はずっと働いているけど，長岡藩の資料から，農民は楽しんだり，何とか休もうとしていたことが分かった。

このように，地域教材を用いることで，子ども同士の対話を生み，幕府と農民との関係について，子どもの見方を広げたり深めたりすることができたと考える。

この後，次時では，幕府と海外との交流について学習を進めた。鎖国政策によって，幕府は外国との交流を独占し，支配力を高めようとしていたことに，子どもたちは気付くことができた。

Ⅴ　成果と課題

A児の振り返り⑤（最終）「どうして江戸幕府は270年間も続いたのだろうか？」 江戸時代は，とてつもなく厳しいってわけじゃないけど，支配するための規則を作って支配していたので，長く続いたのだと思います。

この単元では，大名や人々に負担を強いることで支配しようとした江戸幕府の政策により，武士の政治が安定したという歴史的事象の意味を捉えることをねらいとしてきたが，上記の振り返りから見るに，A児はねらいを達成できたと評価する。A児の他にも，24人／34名が，ねらいを達成することができた。これが大きな成果である。

単元を通して，「どうして江戸幕府は270年間も続いたのだろうか？」を追求してきた。初めは，参勤交代のように，強い支配を目的とした政策は，幕府へ不満を募らせるだけで，安定には結び付かないと考えるA児であったが，資料や仲間との対話を通して，少しずつ見方を広げたり，深めたりすることができ，幕府の政策と270年続いたこととの関係について，自分なりの言葉で表現することができた。また，単元を通して，資料をもとにして考えを発表する姿が多く見られた。振り返りでは，これまでは自分の生活経験や感情をもとにした感想が多かったのだが，教科書や資料を根拠にした記述が増えた。A児のこうした成長も大きな成果である。

〈 参考文献 〉

藤井千春　「主体的・対話的で深い学び　問題解決学習入門」学芸みらい社　2018.07
田中圭一　「百姓の江戸時代」筑摩書房　2000.11
田中圭一　「村からみた日本史」ちくま新書　2002.01
中野裕己　「子供が学びをつくりだす　対話型国語授業のつくり方」明治図書　2022.07
「長岡市史　通史編　上巻」
「ふるさと　長岡のあゆみ」